

サマリアの聖霊降臨

使徒言行録 8:14~25

2018. 11. 25

熊取教会

5 ¹⁴エルサレムにいた使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞き、ペトロとヨハネをそこへ行かせた。¹⁵二人はサマリアに下って行き、聖霊を受けるようにとその人々のために祈った。¹⁶人々は主イエスの名によって洗礼を受けていただけで、聖霊はまだだれの上にも降っていなかったからである。¹⁷ペトロとヨハネが人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。¹⁸シモンは、使徒たちが手を置くことで、“霊”が与えられるのを見、金を持って来て、¹⁹言った。「わたしが手を置けば、だれでも聖霊が受けられるように、わたしにもその力を授けてください。」²⁰すると、ペトロは言った。「この金は、お前と一緒に滅びてしまう
10 がよい。神の賜物を金で手に入れられると思っているからだ。²¹お前はこのことに何のかかわりもなければ、権利もない。お前の心が神の前に正しくないからだ。²²この悪事を悔い改め、主に祈れ。そのような心の思いでも、赦していただけるかもしれないからだ。²³お前は腹黒い者であり、悪の綱目に縛られていることが、わたしには分かっている。」²⁴シモンは答えた。「おっしやったことが何一つわたしの身に起こらないように、主に祈ってください。」²⁵このように、ペトロとヨハネは、主の言葉を力強く証しして語った後、サマリアの多くの村で福音を告げ知らせ、エルサレムに帰って行った。

15

【はじめに】

先週は、「ほの字の里」(貝塚市立研修施設)で、ご一緒に、まことに恵まれた時を過ごしました。ご出席になれなかった方もありますが、来年ご一緒にできれば幸いに思います。もみじが色づき始めていました。昨年ほどみごとではありませんでしたが、美しい午後となりました。特にうれしかったのは、一緒に讃美歌の歌い放題をしたことです。こんな讃美歌があった、みな美しい讃美歌で、懐かしいものでありました。礼拝では、テキストの内容に合わせて讃美歌を選ぶので、歌いたくても選べないものがたくさんあります。皆さまのリクエストで、夫々のお好きな讃美歌と一緒に歌い、皆さまの純粋な信仰に触れさせていただいた気がいたしました。大変うれしかったです。もっとももっとこんな時間があってもいいのに、と思わされました。

25

【サマリア伝道】

わたしたちはいま使徒言行録を読み進めています。来週からアドベントが始まりますので、来週からしばらく使徒言行録から離れます。

今日の物語は、サマリアに福音が伝えられたあとの出来事です。ユダヤ人によって、サマリアに福音が伝えられたということは、ユダヤとサマリアの対立から考えれば、大変なことです。サマリアはエルサレムの北方、ガリラヤとエルサレムの間に広がっていた地域です。サマリアとユダヤとは、長い対立の歴史が続いています。ダビデの孫の時代に、ダビデ王国は、南北に分裂し、対立しました。北の王国はやがてサマリアに王座を据えましたが、アッシリア帝国に滅ぼされ、人々はアッシリアに連行され、各地に散らされました。代わりに、他の民族が移されてきて、混血し、ユダヤ人と異なる血統になりました。また、宗教的には、サマリアはモーセ五書だけを聖典とし、そのほかの書は捨てました。自分たちの地域にあったゲリジム山を聖地とし、エルサレム神殿に詣でるかわりに、ゲリジム山で犠牲を捧げました。一方エルサレムに首都を置くのは南王国ユダでした。ユダは北の王国の滅亡後も栄えていましたが、バビロニア帝国に滅ぼされ、人々はバビロンに連れて行かれました。しかし他民族と混血せず、神の教えを守り通しました。その後、バビロンから解

35

放され、人々はエルサレムに帰ってきました。そして神殿を再建し、教えを固く守りました。その結果ユダの人々はサマリアの人々をさげすみました。その蔑視がサマリア人の反発を招き、互いに激しく憎みあいました。しかし、イエス様は、イスラエルの失われた羊をこそ求めておられましたから、サマリアにもみ国を伝えたいと望んでおられました。そのサマリアへの伝道が、前回の聖書の箇所から始まっています。

ステファノが死んだその日から、教会への大迫害が始まりました。使徒たちだけ残り、教会の他の人々はエルサレムを離れ、ユダヤとサマリアの各地へと散ってゆきました。サマリアに下って行った一人が、フィリポです。彼は、教会の執事として、ステファノと共に選ばれた7人の内の一人です。フィリポはサマリアでイエス・キリストを宣べ伝え、癒しの業を行い、人々から喜ばれました。多くの者たちがフィリポの言葉を受け入れ、洗礼を受けました。そこに、シモンという魔術師がいて、人々に不思議な業を行っては、自他共に「大したものだ」と思っていました。そのシモンが、フィリポの施す癒しの業にすっかり驚き、弟子となって、洗礼を受けました。

【ペトロたちのサマリア下り】

サマリアの人々が大量に洗礼を受けている、というニュースがエルサレムに伝わりました。そこで、エルサレムに残っていた使徒たちが、ペトロとヨハネを代表としてサマリアに送りました。ペトロ達は、サマリアで、人々がフィリポの言葉を受け入れ、大量に洗礼を受けたことを知りました。けれども、彼らにはまだ聖霊が降っていませんでした。ペトロとヨハネがサマリアに下って行って、したことは、祈りでした。サマリアの人々に聖霊を降してくださいと祈りました。二人または三人が主のお名前によって集まるところに、主がおられる。そこで祈りがなされました。

17 ペトロとヨハネが人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。

祈りは聞かれました。御心に適う祈りは聞かれる。サマリアの聖霊降臨は、主が望んでおられることでした。人々に与えられた聖霊。聖霊が与えられた徴は、神の言葉を語ることに示されます。ペンテコステの日、聖霊を受けた人々は、霊の語らせるままにそれぞれの言葉で語りました。それは預言となり、異言となりました。異言とは、解き明かしを受けなければ誰にも意味の理解できない言葉です。聖霊は、神の言葉を語る霊です。聖霊を受けて人々は言葉を語る。のちには、異邦人も聖霊を受けて神の言葉を語りました。使徒言行録 10 章 44 節以下には、ローマの百人隊長コルネリウスとその家族が洗礼を受け、ペトロから聖霊を受けています。彼らは聖霊を受けて異言を話し、神を賛美した。それを聞いて、異邦人も聖霊を受けるのだ、とそこに立ち会った一同が驚いたとあります。

また、使徒言行録 19 章にはこうあります。エフェソでの出来事です。パウロが人々に尋ねます。「洗礼を受けたとき、聖霊をいただいたか？」人々が聖霊を知らないと答えます。そこで

Acts 19:6 パウロが彼らの上に手を置くと、聖霊が降り、その人たちは異言を話したり、預言をしたりした。 エフェソの教会での聖霊降臨です。聖霊降臨は、初めにエルサレムでユダヤの人々の上に起こり、次にサマリアで起こりました。それを今日学んでいます。そして、この後、異邦人たちに聖霊降臨が起こりました。こうして、神の恵みは輪を描くように次々と広がってゆきました。十字架の恵みと聖霊の働きが、外に外にと広がってゆく様子を記した記録が使徒言行録です。

【魔術師シモンの申し出】

サマリアの人々もペトロを通して聖霊をいただきました。聖霊をいただいたことは外から見ても

分かります。受けた人の表情が輝いて、神を賛美し、神の言葉を語る。人々のその変化を見て、魔術師シモンは驚きました。彼はフィリポの業をみて驚きましたが、ペトロ達にさらに驚かされました。ペトロとヨハネが、人々の上に手を置くと聖霊が降る。シモンは驚き、この、聖霊を人々に注ぐ力をものにしたいと思ったようです。何とかこの力を自分のものにして、皆を驚かし、感心させてやりたい。

18 シモンは、使徒たちが手を置くことで、“霊”が与えられるのを見、金を持って来て、¹⁹ 言った。「わたしが手を置けば、だれでも聖霊が受けられるように、わたしにもその力を授けてください。²⁰ すると、ペトロは言った。「この金は、お前と一緒に滅びてしまうがよい。神の賜物を金で手に入れられると思っているからだ。」

10 神が与えて下さる賜物を金銭でものにしたいと考える。私たちから見てもシモンは重大な間違いをしています。彼は神に従うのではなく、神を支配したいと考えています。それは自分を神にすることであり、偶像礼拝の最悪の形です。それが重大な罪であることは、明らかです。

【シモニー】

15 しかし教会が霊的でなくなると、シモンと同様の過ちを犯してしまいます。ヨーロッパの中世の時代、教会が世俗化しました。司教や大司教たちの任命権を王や貴族たちが持つようになりました。世俗の権力が教会を支配しました。教会が世の中で畏れられ、権力をもっていた時代です。教会の仕事を通して名誉も栄華も財産も手に入る。教会の仕事は華々しい職業でした。だから、その、本来聖なるべき職業「聖職」を、信仰に関係なく、自分の親しい者にさせたり、お金で売買りするようになりました。このような、教会の任命権を金銭や世俗の対価で売買することは、「シモニー」と呼ばれています。あるいはシモニズムとも呼ばれます。魔術師「シモン」に由来する言葉です。教会の仕事を、金銭や名誉のための仕事と考える者が、どうして、イエス様の十字架を語ることができるのでしょうか。その結果、世俗化はますます進み、心の奥からキリストを求める者たちとの間の歪は大きくなってゆきました。これは何も、中世ヨーロッパだけの遠い話ではありません。いま

25 の日本も似た傾向があります。牧師の仕事をお金を出して買う者はありませんが、牧師職を選ぶにあたって、神様の御心が最も重要なものとされたかどうか、その現実の判断に対して議論の余地があります。また、次のようなことは、教会員も気を付ける必要があります。例えば、「牧師を雇う」という表現。たまにあるのですが、これは気を付けなければならない言い方です。牧師は雇われているわけではありません。また、「牧師の人件費」という言い方にもシモニズムの匂いがします。

30 世俗の金銭的な力で、神の賜物を左右しようとする。これが魔術師シモンのした過ちです。彼はペトロに厳しく叱られました。²³ お前は腹黒い者であり、悪の縄目に縛られていることが、わたしには分かっている。」こうひどく叱られました。シモンはペトロの力を心底畏れていたもの

35 ですから、すぐに謝って、祈ってください、と願っています。²⁵ このように、ペトロとヨハネは、主の言葉を力強く証しして語った後、サマリアの多くの村で福音を告げ知らせ、エルサレムに帰って行った。

【大切なこと】

この出来事を通して、私たちは、シモンのような考えをしてはならないことを改めて知りますが、それよりももっと大切なことがあることを、見逃してはなりません。

40 それは、「神は聖なるもの=売り買いできない尊いもの=を、私たちに、与えて下さった」とい

うことです。しかも、値なしに。 されどころか、その尊いものを、キリストの命に替えて私たちに与えて下さっている、ということです。この恵みは途方もないものです。

私はまことに小さいものですが、神はその私を、ご自分の一人子の命で買い取ってくださいました。神の愛の深さを、イザヤはこう歌っています。

5 イザヤ 49:15 女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか。母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。たとえ、女たちが忘れようとも／わたしがあなたを忘れることは決してない。

母親の愛よりも深い愛。母親の憐みよりも大きな憐み。だからこそ、一人子を賜るほどに、神は私たちが愛してくださいました。そのうえ、神は、この世のものでは決して手に入れることのできない聖霊を、私たちに注いでくださいました。だから、私たちは改めて、パウロのいう言葉に注意を向けたいとおもいます。彼はこう言っています。

10 一コリ 3:16 あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。そしてまた、パウロはこういっています。

・エフェ 1:14 この聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうして、わたしたちは贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。

15 私たちは、心の内に住んで下さっている聖霊を知っています。聖霊は永遠の命の保証です。終わりの日、私たちは、主なるキリストに贖われて神のものとなされ、共に神の栄光をたたえつつ、永遠の命へと入れられます。

【終わりに】

20 先週、皆で讚美歌を一緒に歌い、あれほど楽しく恵まれた秋の日の午後を過ごしました。心が洗われる思いでした。皆で神の栄光をたたえる、その喜び。しかしそれは影にすぎません。それは御国において、神の栄光を賛美する喜びの、この世に映し出されている影です。御国での、その時の喜びが、どれほど大きいものであるか。それを思うとき感謝と喜びが心に溢れてまいります。今週、この恵みを思いながら、それぞれの歩みをなしたいと思います。

25